



2F スタジオシアター

先進のAV機器や照明装置などを備える多目的スタジオ。主に人間科学部の授業で用いられ、児童演劇や子どものためのダンス公演にも活用されます。今日の授業は、児童演劇のスペシャリスト、小林由利子先生による「保育内容表現指導法」。



学生たちがグループごとに靴下で作った人形劇を演じます。「ドラマ／演劇を通じて、遊ぶこと、考えること、発見すること、学ぶことの面白さを体感してほしいと思います」(小林先生)



靴下人形がお手製なのはもちろん、劇のストーリー、効果音やBGMも学生が自ら考えます。発表を前に、真剣な表情で最終チェックを行います。

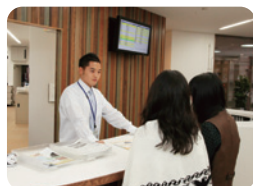
3号館

1・2号館から道路を挟んですぐ。3号館(地上3階・地下1階建て)には、西洋風の瀟洒な中庭を中心に、学生支援センター(事務局)や、学生ラウンジ、学生食堂、図書館、子育て支援センター「びっぴ」、卒研スタジオなど、特色のある施設が配られています。中庭に佇立するのは、日本具象彫刻界の第一人者、桑原巨守先生による母子像。学生はもちろん、近隣のお母様方がお子さんと一緒に、パラソルの下で談笑する姿も時に見受けられます。



1F 学生支援センター(事務局)

道路に面した学生ラウンジの奥に、学生たちの質問や疑問に何でも答えられる学生支援センターがあります。ただいま事務局の高橋弘嗣さんが、課外活動の相談にきた女子学生の応対中。「後援会誌のお手伝いもさせていただいています。一読者としても、とくに『キャンパススポット』のコーナーは楽しみにしています」と高橋さん。ありがとうございます!



2F 子育て支援センター「びっぴ」

2004年に設立された等々力キャンパス内の保育施設。1日平均120人程度の保護者と子どもたちが利用しており、地域子育て支援の中核を担っています。人間科学部2～4年生はここで研修を実施。実践的な教育の場としても十分に活用されています。



東横学園女子短期大学時代に「びっぴ」を設立し、今もその運営を担う人間科学部教授の小川清美先生(後列)と、保育士の皆さん方。「ここに来て良かった、という保護者の方々の声を聞くこと、心から嬉しくなります。学生たちが保育現場を身近に感じられるので教育面でも大変有効です」(小川先生)

4F 都市フォーラム

都市生活学部の空間デザイン演習やプレゼンテーション、研究発表などで使われる多目的施設。2009年夏に完成しました。この日は、学生が発表したパネル展示が行われていました。



都市フォーラム前の廊下では、学部の教員たちによる、都市回廊をテーマとした「世界の街の写真展」を実施。ヨーロッパやアジア諸国の美しくもミステリアスな景観に、しばし嘆息。いながらにして、都市の何たるかを実感できる空間です。



3F 卒研スタジオ

2011年度に完成を予定。卒業研究をスムーズに進めていくためのさまざまなサポート機材や、ディスカッションを行うミーティングスペースなどが設置されます。



1F 学生食堂

近隣住民の方々にも開放。もちろん世田谷、横浜キャンパスの学生や教職員も利用できます。高級住宅街のただ中にある等々力キャンパスらしく、小洒落たカフェを彷彿とさせるスタイリッシュな内装が特徴的。美味しい、と評判の食堂です。

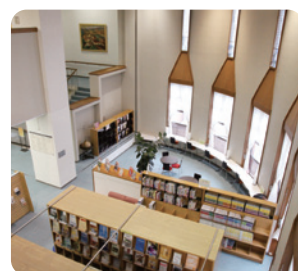


この日が誕生日という児童1年の溝口瑛大君は「日替わりのAランチに、栄養バランスを考えてプラス50円で小鉢をつけました。自分へのプレゼントです(笑)」。お隣の山口琴美さん(同)は、「私は原則としてお弁当。人間科学部の学生はみんな仲良しなので、和気藹々と学修しています」。お二人とも保育士が幼稚園教諭を目指しているそうです。

図書館

蔵書数約17万冊の図書館。学生選書ツアーを定期的実施しながら、利用者の声を聞き新たな蔵書を増やしています。

1階セキュリティゲートを入ると、カウンタースタッフが笑顔で迎えてくれます。フロアは開放的なラウンジやパソコンコーナーを設置し、資格取得に役立つ実用書・雑誌・絵本・辞典類などが配架されています。2階は、専門書を中心とした資料が配架され学修のスペースとして利用されています。



2階の学習コーナーで自習中の山崎美沙さん(都市生活1年)。「デスクにLANケーブルが設置されているので、インターネットで建築関連の情報を収集しています。建築士になりたくて頑張っています」と、将来の希望を聞かせてくれました。